

1 津山市重点取組

津山市立加茂中学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	①研修部 ②授業者 ③授業者 ④学習支援員と学力向上担当を中心に全教員	①全国学力・岡山県学力調査の問題分析から見える授業改善についての研修を加茂小学校と合同で行い、系統だった指導の具体的手法を提案する。 ②研究テーマ「自分の学びを見取るまとも・ふり返り」に基づき、基礎・基本と活活力の向上を図った指導を行う。 ③課題・予習・自主学習など、家庭学習をしておくよく分る授業をつくる。 ④定期テスト期間を中心に放課後質問教室で補充学習を行う。	①夏休み中 ②年間を通じて ③年間を通じて ④定期テスト期間ごと	①全職員でつまずき傾向と対策を考え分析し、朝学習や各教科の授業でできることを考えて実施する。 ②全学年、各学期の朝学習で国語・数学・英語の「基礎・基本」を徹底する「チャレンジテスト」に取り組む。各教科の定期テストが「記憶再生」にならないよう、教科を超えて研究し、思考力向上につながる問題を準備する。 ③自主学習ノートの例を提示したり、授業で取り上げたりすることで、次の授業に生かせる家庭学習を称揚し、モチベーションを高める。 ④特に授業で苦勞している生徒に声をかけ、マンツーマンで全教員が指導に当たり「やればできる」を実感させる。	①授業がわかると回答する生徒の肯定的な回答が国語・数学では90%以上、英語では80%以上。 ②チャレンジテストで全員が正答率80%以上。 ③自主的に家庭学習に取り組む生徒の割合が60%以上。 ④自習教室に参加する生徒数延べ100人以上。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①各学年担任 ②生徒指導と地域担当	①情報モラルの指導やスマートフォンやメールの使い方について ②スマホに関する啓発の実施	①年間を通じて ②年間を通じて	①インターネットモラル教室を受講し、メディアリテラシーを身につける。 ②家庭学習の時間、メディアの利用時間の調査を学期に1回行う。小学校とも連携を図り、担任を中心に意識的に声掛けを行うよう、生徒指導や地域担当者とも情報共有をする。また、調査した内容は、個人愚談や学級愚談などでも話題として取り上げ、保護者の意識も高める。	①スマートフォン等でのトラブル0件。 ②平日のスマートフォン等メディア利用時間が2時間未満の生徒の割合が80%以上。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(3年) ○国語・数学・英語(話すこと)では、岡山県・全国平均を大きく上回った。英語は岡山県・全国平均をわずかに下回った。 ○国語(話し合い)の話題や方向を捉えて自分の考えを持つ(本校75.0%全国60.4%)、数学「事柄が成り立つ理由を説明する」(本校75.0%全国59.7%)など、全教科とも記述式問題で、英語(話すこと)では「自分の将来の夢、またはやってみたいことを話す」(本校75.0%全国45.8%)で、全国平均を大きく上回った。 県(2年) ○国語・英語については基礎/活用とも県平均を下回っている。数学については基礎/活用とも県平均を上回り、特に数学の活用はかなり高い。 ○国語の領域別正答率では「読むこと」(本校44.4%、県50.8%)が低く、説明文等で場面の展開を捉えることを苦手としているが、昨年度からは改善傾向にある。 ○英語の領域別正答率では「読むこと」(本校49.7%、県59.1%)が低く、特に文中の「them」の指す内容の把握(本校39.3%、県67.9%)等、長文読解が苦手である。 県(1年) ○全体的に2教科とも県平均正答率を下回っている。 ○国語では「漢字を書く」(本校35.4%、県51.9%)が低いが、「説明文の内容を読み取る」では県平均正答率を上回っている。 ○数学では「4種類の中から2種類を選ぶ選び方」を求める場合の数の正答率が、27.8%(県57.4%)と著しく低い。	【学習状況調査の結果】 (全学年) ①平日1時間以上家庭学習をする生徒：3年59.4%(昨年84.4%) 2年78.6%(昨年92.9%) 1年94.4%で、2、3年は減少傾向、1.2年は県平均を上回っている。 ②スマホの使用(ゲームなど)が平日2時間以上の生徒：2年50.0%(県44.1%) 1年44.4%(県40.8%) ③自分にはいいところがあるを回答した生徒：3年65.6%(全国74.1%) 2年71.4%(1年次71.4% 県75.6%) 1年83.3%(県80.7%) ④テレビ等の視聴が平日2時間以上の生徒：2年64.2%(県48.5%) 1年52.8%(県49.7%) ⑤読書時間が平日30分以上の生徒：3年15.6%(全国27.0%) 全国(3年) ○生徒の間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と考える生徒が84.4%(全国72.8%)と多い反面、「学級活動で話し合い、互いの意見の良さを活かして解決方法を決めている」と感じる生徒は50.1%(全国71.6%)と少ない。 県(2年) ○学習では答えの理由が分からなくても問題のやり方を覚えればよい」と否定的な生徒が75.1%(全国52.4%)、「家の人に言われなくても、進んで勉強していた」78.6%(県58.3%)と著しく多い。 県(1年) ○「将来の夢や目標を持っている」生徒が75%(県85.8%)と低い。

成果	課題
○「自分の学びを見取るまとも・ふり返り」を校内研究のテーマとし、全教科で続けている授業改善が生徒の主体的な学びにつながっていることを、学年ごとの無解答率から読み取ることができる。学年が上がるにつれて無解答率が低くなり、3年生の国語では無解答率が全問0%であった。 ○2、3年生では、全教科で記述式問題の正答率が県・全国平均を上回り、記述式問題では特に無解答率が平均を大きく下回った。 ○2年生では、習熟度別少人数授業や校内チャレンジテスト等の成果で、数学の活用で+2.5と大きく伸びた(1年次-7.8)。 ○3年生では、特に「読むこと」+8(2年次+6.9)が伸びており、英語の「読むこと」+7.4も伸びてきている。  ○学習規律(加茂中スタンダード)や生徒会(委員会)の呼びかけで「始業前1分前着席」が定着し、全学級落ち着いた雰囲気や授業に集中できる環境にある。 ○学習状況調査から、総合的な学習の時間など、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動の中で、対話的な学びの姿勢が共有されつつあることを見取ることができた。	○短答式の問題で正答率が県や全国平均を下回るものが見られた。正確な知識の定着に課題があると言える。 ○1年生は特に国語の「漢字の書き」、「調べたことをもとに資料を書く」が低く、数学では「場合の数」、「単位量あたりの大きさ・平均」について定着が進んでいない。 ○2年生は特に「読むこと」に課題があり、国語・英語では文法・語句の定着から進めていく必要がある。英語は平均を大きく下回っているため、基本から定期的な復習を要する。数学では「資料の活用」に課題があり、問題文を正確に読み取り、求められていることを把握する力が必要である。 ○3年生は英語の「聞くこと」書くこと「外国語表現の能力」言語や文化についての知識・理解が平均を下回っており、復習を要する。  ○学習状況調査では「学校に行くのは楽しい」生徒が全学年で県平均を下回っている(3年-21.4% 2年-4.5% 1年-3.1%) ○自分の学びを見取るまとも・ふり返りを校内研究のテーマとしているが、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した生徒は2年生で67.9%(県77.3%)と著しく低かった。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月未現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
読む能力の向上	年度末	現1,2年生 領域別正答率で今年度+5%をめざす	○朝学習(モジュール)を利用し、国/数/英の苦手領域を克服するための問題演習を行う ○プリント課題や定期テストの直前に丁寧に取り組み、間違えた問題を確実に自分の力にする指導を徹底する					
自己肯定感・自己有用感の高まり	年度末	全学年 全員が自分には良いところがあると感じる	○教育相談の充実 / SCからの授業 ○ポジティブな言葉かけ(個別・集団とも)でセルフイメージをポジティブにできるようにする ○行事やボランティア等で校外の方と接する機会を増やす					
家庭学習の定着・充実とメディアコントロール	年度末	全学年 全員が平日の家庭学習時間1時間以上	○自主的な放課後学習(3年生中心)の実施 ○タイムマネジメントのための生活リズムを整える指導 ○自主学習ノートの発行/保護者への協力要請 ○小学校と連携したメディアコントロールの実施					

※達成度 S:目標を大きく上回った(100%超) J:A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満) J:B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満) J:C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満) J:D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満) J'E:目標を達成できなかった(30%未満)

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○岡山県及び全国学力・学習状況調査の分析をもとに強み弱みを共有し、一か一中の利を活かして授業改善を検討し、教科の学力向上に取り組む。 ○小中連携による授業参観や出前授業を複数回実施し、児童生徒や学習内容の情報交換や共有を進める。始業前1分前着席を小中で一緒に取り組む。 ○ブロック人研等を利用し、小中で自己有用感を高める取り組みを連携して実施する。 ○メディアコントロールに小中統一して取り組み、好事例を発信するなどしてモチベーションを高める。	○メディアコントロールの取り組みを家庭を巻き込んで行う。 ○課題提出の状況などをこまめに家庭に連絡し、必要な場合は親子で取り組んでいたなど、家庭の協力を得て提出物完全提出をめざす。 ○SDGsの時間や職業調べインタビュー、職場体験学習、ボランティアなど保護者・地域の方とふれあう(お話を聞く)機会をつくり、幅広い年代・職業の方と接して視野を広げられるようにする。